

動燃事業団の整理・廃止事業について
(検討用資料)

平成10年2月3日

1. 海外ウラン探鉱

○状況認識

- ・1980年以降の国際的過剰在庫、市場低迷等から、ウラン生産の寡占化が進行
- ・優良鉱区の開発計画の進行等により、少なくとも今後十数年間はウラン市場は安定状態にあると推定。
- ・電気事業者は、当面、現在の調達先であるウラン生産事業者から安定した調達が可能との認識。

○動燃事業団の海外探鉱活動

- ・動燃事業団の海外探鉱活動は1970年代の天然ウランの逼迫化の中で本格化。現在、4万トンUの權益を確保。

○主な論点

- ・核燃料サイクル関連事業の進展、動燃事業団の改革の観点等を踏まえた、動燃の探鉱技術、人材及び權益の扱いを含めた海外ウラン探鉱の今後のあり方。

2. ウラン濃縮技術開発

○状況認識

- ・動燃事業団がパイロットプラント及び原型プラントの建設、運転等を通じて開発した遠心分離法濃縮技術は、六ヶ所ウラン濃縮工場に導入。
- ・世界的な状況にかんがみれば、安全確保を大前提に、経済性の向上に積極的に取り組むことが重要。

○主な論点

- ・技術移転の状況等を踏まえた、動燃事業団の濃縮技術、人材等の扱い。

3. 新型転換炉の開発

○状況認識

- ・平成7年8月の当委員会決定において、実証炉建設計画の中止とともに、「ふげん」をプルトニウム利用技術開発施設、国際的共同研究施設等として利用していくとの方向性。

○主な論点

- ・動燃事業団の改革の観点も踏まえた、「ふげん」の円滑な廃止に向けた活用方策。